

# ゴーヤ 1 号

適用作型 露地栽培及び促成・半促成栽培

雌花着生	親ヅル	子ヅル	孫ヅル
9～10月播種	60～70%以上	70%以上	70%以上
12～1月播種	70～80%以上	80%以上	80%以上
3～4月播種	60～70%以上	70%以上	70%以上

## 耕種基準

畦幅 1.8～2.0m 株間 2.0～3.0m 1条植  
10a 当り 150～250株

## 品種の特性

- 果実 250～300g で 28～33cm 位、果径 5～6cm
- 果皮色 肩部から尻部まで色抜けの無い濃緑色果
- 生育 旺盛で作りやすい。  
雌果連続が有るわりに、子枝・孫枝の発生が良く、多収型品種

## 栽培のポイント

- ・ 高温性の野菜なので発芽適温もやや高く 30℃位を確保する。
- ・ 子葉展開後 12～15cm ポットに鉢上げし、徒長しないように鉢ずらしを行う。  
新土佐系のカボチャに接木すると、後半までの草勢維持が容易にでき、また  
土壌病害等も回避できる。
- ・ 本葉 5 枚位に達したころ定植する。
- ・ 生育適温は 17～28℃位で、気温が低いと着果不良になり曲果の発生や肥大の緩慢を招く。
- ・ 雌花着生率が高い為、果実はツルを満遍なく伸長させてから着果させる方が草勢維持できる。
- ・ 草勢維持の方法としては、
  - ① 実を着けすぎない
  - ② 肥料切れに注意し、早目の追肥を実施する
  - ③ 曲り果等の不良果実は早目に摘果する
  - ④ 換気を良くし、病虫害防除を徹底する
- ・ 元肥は有機質タイプの肥料を用い、肥効を長期化することで、草勢維持に努める。また、追肥は液肥灌水で行ない、N成分で 1.5kg 程度を 5～7 日間隔に配分して実施する。
- ・ ハウス促成栽培については媒介昆虫類の飛来が少ないのでミツバチの導入等を考えた方が  
良い。1～3月までの低温期は人工交配により着果を図るようにした方が良い（交配は初  
期 3 から 4 回までは週 1 回とし、以後は草勢をみながら週 2 回程度の交配を行う）。